

小児の熱中症に白虎加人参湯



木村 康子 先生

木村耳鼻咽喉科小児科医院

1988年 東京女子医科大学医学部 卒業
 同 年 東京慈恵会医科大学 小児科
 1998年 木村耳鼻咽喉科小児科医院 勤務
 2000年 国立小児病院耳鼻咽喉科 研究員
 2002年 成育医療センター耳鼻咽喉科 研究員
 同 年 木村耳鼻咽喉科小児科医院 副院長

はじめに

熱中症による死亡事故は毎年1,000人弱が報告されているが、乳幼児と高齢者だけではなくスポーツを盛んに行う小児～若年層にも多数の報告があり、小児においては運動不足の小児/運動過剰な小児のどちらにも熱中症になる危険が存在する。しかも患児から熱中症の初期症状の訴えがなく、また訴えがあっても的確に対応できないなどの理由により重症化してしまうことが多いと思われる。熱中症の治療は対症療法が一般的であり、生活指導のほかに予防法はないため繰り返し受診する小児も多い。

これらの患者に白虎加人参湯が奏効した症例を経験したので報告する。

症例 1

症 例：14歳 男児。

主 訴：運動時の口渇、頭痛。

既往歴・現病歴・所見：図1に示す。

経 過：運動時の喉の渇きを熱中症の始まりと考え、クラシエ白虎加人参湯エキス錠8錠/日(分2)を投与したところ、喉の渇きが軽減し、それまで運動時に自覚していた頭痛も消失したことに気づいた。それ以来、運動前に服用しておく頭痛が起きないからと本人が服用を希望し、処方継続している。

症例 2

症 例：9歳 男児。

主 訴：運動時の疲労感。

既往歴・現病歴・所見：図2に示す。

経 過：運動時の疲労を熱中症の初期症状と考え、クラシエ白虎加人参湯エキス錠8錠/日(分2)を処方した。運動前に服用することで、運動時および運動後の疲労が軽減した。本人が服用を希望するため、処方を継続している。

図1 症例1 14歳 男児

既往歴

アトピー性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、微小血尿症候群

現病歴

0歳より当院に通院加療中。7歳時に学校検診で潜血尿を認めて以来、腎臓病悪化の予防として、水分摂取を十分行うよう心がけている。12歳からはアトピー性皮膚炎とアレルギー性鼻炎の治療を主に行っている。皮膚は運動時の体温上昇でカサカサして痒みが悪化する傾向にある。バスケットチームに所属し、毎日のように運動している。13歳時の5月、運動会の練習中に強い口渇を訴えた。

身体所見

- 身長：163.2cm 体重：53.4kg
- 皮膚：色白、乾燥
- 鼻腔所見：下鼻甲介粘膜の蒼白・浮腫あり
- 腹証：筋肉質。圧痛なし。腹診でくすぐったがる。心下痞硬(+)

検査所見

WBC 7,700/μL、Hb 17.2g/dL、BUN 11.4mg/dL、1/Cr 0.62
 IgE RIST 487 IU/mL、IgE RAST 多抗原で陽性
 尿：蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)

図2 症例2 9歳 男児

既往歴

在胎 33週 出生体重 1,992g 双生児 C/Sで出生
アレルギー性鼻炎、気管支喘息、アレルギー性結膜炎、微小血尿症候群、
反復性中耳炎、反復性扁桃炎(7歳時に扁桃摘出術)

現病歴

0歳より当院に通院している。感冒罹患が多く、通院頻回だった。7歳時に扁桃摘出術を行って以降は、アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎、アトピー性皮膚炎の治療を中心に行っている。夏は多汗で汗疹がでやすく、冬は乾燥肌となる。口内炎がでやすい。たくさん食べられない。バスケットチームに所属して週に4回練習している。運動することは好きだが、運動時に非常に疲れやすいことを訴える。

身体所見

●身長:123.5cm 体重:25.2kg
色白 腹力軟 腹診でくすぐったがる。

検査所見

WBC 7,600/μL、Hb 15.2g/dL、BUN 15.3mg/dL、1/Cr 0.44
IgE RIST 316 IU/mL、IgE RAST 多抗原で陽性
尿:蛋白(-)、糖(-)、潜血(2+)

図3 白虎加人参湯

出典

『傷寒論』・『金匱要略』

- 大汗出でて後、大煩渴して解せず、脈洪大なる証。(『傷寒論』太陽病上篇)
- 喝(中熱、熱射病)にして、汗出でて悪寒し、身熱して渴する証。(『金匱要略』瘧濕喝病篇)

構成生薬

石膏・知母・甘草・人参・粳米(白虎湯+人参)

保険適応病名

のどの渇きとほてりのあるもの

注意

胃腸の虚弱な患者や、著しく体力の衰えている患者には慎重投与とされる。

図4 暑気あたりの治療について

浅井貞庵『方彙口訣』中暑門

「外表に暑気入りて其の陰影(こかげ)には湿気陰気を含み、内に水の湿のというの瀰(たま)るありすれば中暑の薬というが、内外の熱を目的に白虎の筋、表の暑内の湿を目的に五苓の筋、元氣陽気の疲れを目的に清暑益気の筋と。この三手段を工夫して暑気の治療をなすべきぞ」

白虎加人参湯について(図3)

白虎加人参湯の出典は『傷寒論』、『金匱要略』である。傷寒論(太陽病上篇)では「大汗出でて後、大煩渴して解せず、脈洪大なる証」とあるが、これは口渴があり汗が大いに出るという証である。金匱要略(瘧濕喝病篇)では、「喝にして、汗出でて悪寒し、身熱して渴する証」とある。喝は熱射病を指すことから、熱中症のときに使用せよということである。

まとめ

運動時に、頭痛・喉の渇きを強く訴えるスポーツ好きな小児に対し、白虎加人参湯を運動前に頓服することで効果があつた。

今回の症例はいずれもアレルギー性疾患があり、胃腸が弱く、本来の体質は虚証の小児であった。白虎加人参湯は虚証の小児には使用しにくい印象があるが、暑さと口渴を訴える場合には、熱中症の初期治療として有用であった。運動時・運動前に頓服で用いることがよいと考えている。

Discussion

木村(容):2症例とも錠剤を使用されていますが、小児では錠剤を使うことが多いのですか。

木村(康):「粉薬と錠剤のどちらが良い?」と本人にお聞きしますが、学童期の子どもは錠剤を希望することが多いですし、その方がコンプライアンスも良いようです。

木村(容):熱中症には五苓散や清暑益気湯などもありますが、どのように鑑別されていますか。

木村(康):一つの例として浅井貞庵の『方彙口訣』があります(図4)。内外に熱のあるときは白虎加人参湯、表は暑く内に湿がある(水分の摂り過ぎや胃内停水がある)ときには五苓散、元氣陽気の疲れがあるときには清暑益気湯と、このような判別法もあります。

木村(容):小児の熱中症の治療では白虎加人参湯を使うことが多いのですか。

木村(康):暑さによる口渴、ほてりや頭痛など「熱がある」状態に使用しています。

木村(容):石膏を使って冷ますということですね。白虎加人参湯の小児への投与のコツをまとめてお示しください。

木村(康):小児は予備能力が少なく、また症状があってもそれをうまく訴えることができないため、対応が遅れてしまうことがあります。運動をして暑くなったり頭が痛くなったりする傾向がある方には、証を見て白虎加人参湯を使うことも選択肢の一つとして良いと思います。